



『国語科』くらべてみよう『いしゃど いしゃ』
 一年生の授業風景。二つの言葉を比較する学習。
 子どもたちは身を乗り出して学習しています。
 (旭川市立知新小学校)

No. 106 (平成22年11月1日)

おもな内容

	ページ
随 想	1
教育講演会の概要	2
研究室だより	3
研修講座寸描	4～6
出前講座寸描	7
座談会	8～9
ミニ道研・ご案内	10



ともに生きるために

上川教育研修センター

山下尚年

公益法人日本生産性本部が毎年発表している「二十二年の新人のタイプ」によると、平成二十二年度は「ETC型」だそう。解説には、『氷河期といわれる厳しい就職戦線をくぐり抜けてきた今年の新人社員は、携帯電話やPCなどIT活動に長けており、情報交換も積極的、時間の使い方も効率的で、物事をスムーズに進めるスマートさもある。ただ、高速道路の料金所のETCの普及でドライバーと徴収員との対話がなくなったように、効率性を重視するあまり人との直接的なコミュニケーションが不足することがあるタイプ』とあった。たしかに、高度に発達した社会の中で生きる子ども姿を見ると、コミュニケーションをとらなくてもいい環境の中で育っているのではないかと心配になる。自転車に乗りながら、また座るとすぐに一言も話さず携帯電話にむかい文字を打つのに熱中する姿、話すことよりもメールである。手順や方法はわからなくても必要なのは機械が話し教えてくれる。家に帰ると家人からの問いに「べつに……」「ふつう……」で済ませてしまう。欲しい情報は一方向で入り、それが当たり前のようになっていく。そこには、双方向の会話のやりとり、コミュニケーションがなく、人とのつながりもできにくい。まさに、コミュニケーションの若者の姿が見えてくる。

新学習指導要領では、子どもたちの思考力、判断力、表現力を育むために、また、自分に自信がもてない子どもたちが、他者や社会、自然等との関わりの中でともに生きる自分への自信をもたせるため

に「言語活動の充実」を改善の視点として重視している。

「共生」の考え方に立つ社会の中で生きる子どもたちには、他者と力を合わせてよりよい社会づくりに寄与する資質や能力を身につけさせることが必要であり、他者との人間関係をどうつくるかが大きな鍵となる。そのためには、コミュニケーション能力を高めることが重要である。相手の話を「よく聴き」、「自分の言葉」で、必要なことを返すことで会話が成り立つ。自分の言葉で言うためには、自分自身の今までの経験・体験が生きてくるはずだ。自分が何を感じ、どう対処したのか、身をもって経験していることは生きた言葉として相手の共感によび、コミュニケーションがとれ、人とのつながりを強めていく。ぜひ、子どもたちに多くの経験・体験をさせてやりたい。試行錯誤しながら、異なる意見をもつ人との話し合い、対話を通して自分を表現し、コミュニケーション能力を高めていく子どもの姿、そこには、「べつに……」で終わることなく、相手を思いやった会話が続き、まさに「ともに生きる姿」が見えてくるのではないだろうか。

本研修センターでは、第十四次研究第三年次として「思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の在り方」を研究主題に、言語活動の充実を含めてよりよく問題を解決する児童生徒の姿を求めて研究を進めています。二月の研修センター研究発表会において、研究成果をご提言いたします。多くの皆様のご意見をいただければ幸いです。



「技術科・生物育成」 和寒町が日本一の作付け面積を誇るかぼちゃの栽培に取り組みました。収穫したハロウィンかぼちゃでランタンをつくり、和寒町のかぼちゃランタンまつりにも参加しました。

（和寒町立和寒中学校）

セ ン タ ー 日 誌

7月13日 夏季拡大研究室会議

7月26日
～
27日

道研連夏季所員研

7月26日～8月5日

研究室夏季集中研

8月24日 センター組合議会運営委員会

センター組合議会本会議

9月16日～17日

道研連十勝大会

11月1日 センターだより 106号発行

※毎週火曜日 定例研究室会議

上川教育研修センター 教育講演会

平成二十二年九月七日(火)

特別支援教育における今日的課題

放送大学 客員教授 西川 公司



一 はじめに

私は旭川出身です。子どものころの思い出は、啓明小学校時代に、NHKラジオ歌唱コンクールで全国最優秀になり、ご褒美で東京に行き、NHKのテレビ番組「私の秘密」に出演したことです。

今日は、出身地でお話できることを大変光栄に感じています。各種調査の結果や様々な報道がありますが、私は北海道の教育水準は高いと思っています。それは先生方の水準が高いからです。

二 特別支援教育の実態

学校教育法には「障害のある子どもたちの自立や社会参加について適切な指導や支援を行う」と明記されています。そして、すべての学校で特別支援教育の思想を普及させていこうとしています。日本は「共生社会」を標榜して国全体が動いており、その要に特別支援教育が位置づけられています。

現在、特別支援教育を受けている子どもたちの数は、一十二万四千人にのぼり、平成二十年度の義務教育の対象人口は一〇七九万人です。一・一七パーセントの割合になります。そして年々こ

の数は増えていきます。

学部別には、知的障がい的高等部の生徒が増加しています。このことは、特別支援学校の中等部から高等部への進学だけでなく、一般の中学校から特別支援学校高等部への進学が増加していることを表しており、都市部で顕著な傾向にあります。

三 教育課程の編成と評価

特別支援学校の学習指導要領では、各教科と自立活動を組み合わせて教育課程を編成することになっています。大切なのは、教師が一人一人の子どもの実態とその子の将来を見据えることです。これからの時代は教育を科学しなければなりません。たとえば、ブランクに子どもを乗せる活動を例にとると、「子ど



もがブランク好きだから乗せる」というねらいや説明ではいけません。「脳における平衡感覚や姿勢保持の感覚を養うために行う」という明確なねらいをもって、それを保護者に説明できるようにすることが必要です。

評価では、学習活動ごとに、子どもにどんな反応がみられたら、どう判断するのかを大事にしていくことが必要です。課題分析をしながら、子どもが一人でできることと教師が支援することのバランス、その活動がどれくらいの時間で出来るのか等を組み合わせた基準をつくって見取る必要があります。

四 教職員の資質・能力の向上

教師にとって必要なのは「子供大好き人間」であるということと「専門家としての確かな力量」をもっていることです。

研修の成果を日常的に実践する教師は、普段から、何気ない身の回りのものからでも刺激を受け、教室環境の整備や授業づくりのヒントを感じ取ることができま。また、教育の効果を上げている学校は、校長のビジョンが明確で、到達すべき目標値を定め、核になるリーダーがいます。十二年間、校長を勤めました。その学校では、ミドル層の先生から「朝練」をやるので、〇〇教室を貸していただきたい」という申し出がよくありました。出勤前の時間を活用するのが「朝練」、退勤後の時間を活用するのが「夕練」と呼ばれていました。教科の指導方法や教材づくりをチームで行い、年齢や経験を超えて互いの特性を生かしながら切磋琢磨する素晴らしい活動でした。こうしたことを発想し、自由に行える空気を職場に作っていくことが管理職のみ



なさんに求められていると思います。

五 おわりに

今後に向けて、ぜひ、自分の専門的な分野を深く追求し、本音で言い合える仲間をもっていたきたい。

そして自分の実践を一年間にA4版一枚程度にコンパクトにまとめましょう。自らの教職における自分史を作成してほしいと思います。折りにふれ、自らの実践を振り返りながら、方向性を見失うことなく実践を進めることができます。

私は子供たちと出会えて、大変幸せな人生でした。自分が「学校」を卒業できたのも、仲間や保護者との出会いがあったからです。

未来を作るのは子供、そこに携わるのが教師です。現実は大変ですが、ミッションを自覚し、明確なビジョンをもって進んでいただきたいと思います。

今、研究室
では…

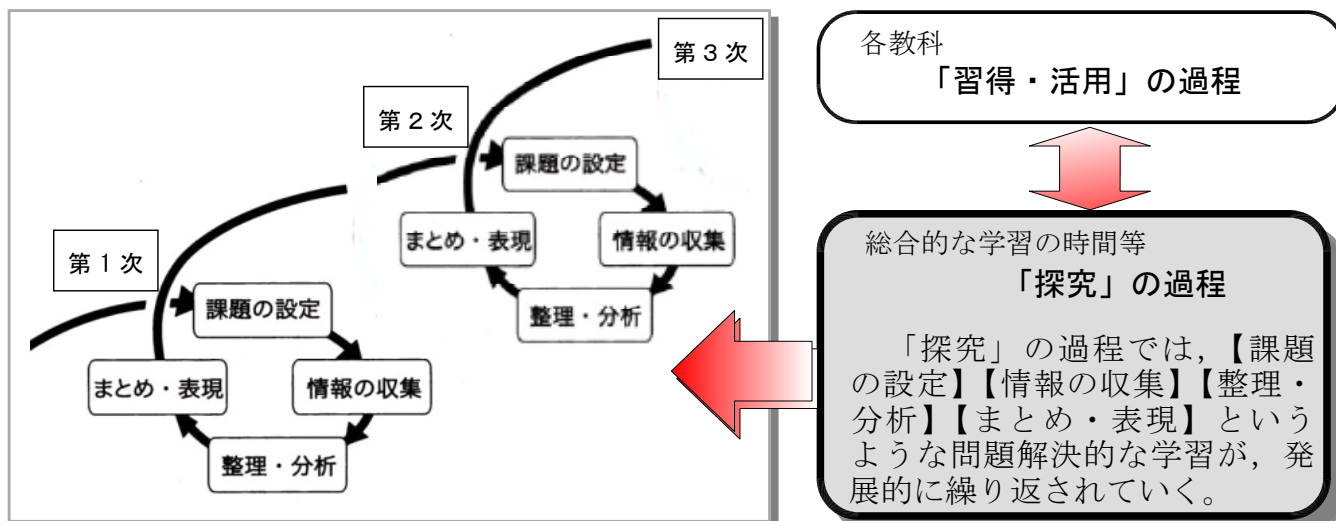
上川教育研修センター 第14次研究～3年次～

研究主題

思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の在り方

今回のセンターだよりでは、研究内容の授業展開の工夫から、「探究」の過程における1単元の授業展開の基本型についてご紹介いたします。

「探究」の過程における単元(題材)の授業展開の基本型



見付ける	第1次	課題の設定	■課題設定の工夫 体験活動等を通して、児童生徒が自ら課題をもつ場を設定する。その際、課題意識が連続発展するように、教材との魅力的な出会わせ方を工夫したり、意図的な働きかけをしたりするなどの手立てを行う。	学習意欲、 基礎的・基本的な知識・技能、 思考力・判断力・表現力等
		解決計画		
		情報の収集	■情報収集の工夫 課題意識や設定した課題を基に、児童生徒は、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行い、必要な情報を多様に収集する。その際、体験を通じた感覚的な情報の収集等を意図的に位置付ける。	
		整理・分析	■整理・分析の工夫 収集した情報を整理したり、分析したりして、思考する活動へと高めていく。収集した情報がある目的にしたがって、種類毎に分けるなどして整理する。また、因果関係を導き出したり、分析したりする学習活動を位置付ける。	
求める		まとめ・表現	■まとめ・表現の工夫 他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動を行い、児童生徒の既存の経験や知識と学習活動により整理・分析された情報とがつながり、一人一人の児童生徒の考えが明らかになったり、課題がより一層鮮明になったり、新たな課題が生まれるなどの学習活動を位置付ける。	
高める	第2次			

12 学校経営Ⅱ 6/23



上川教育局 川島政吉教育支援課長による「教育課程の適切な編成実施の在り方」の説明



上川教育局 月居則史次長による主催者挨拶

研修講座
その2

講座の様子 受講者の声から

13 読書活動 6/23



学校図書館補助員による「おすすめの本」の紹介

学校図書館補助員との授業という新しい形態を参観させていただき、日常の学習活動との関連について、改めて考えるよい機会となりました。また、各学校での課題を共有し、それぞれの実践から今後の方向性を協議することができました。
(富良野市立布部小学校 渡辺真紀子)



永山小 第5学年国語科「ちかい」の発展～テーマを決めて自分が読みたいと思った本を選ぶ～

14 複式教育 6/30

嵐山小中 講義「複式教育の課題と学習指導」の様子



第5学年「形も大きさも同じ図形を調べよう」第6学年「順序よく整理して調べよう」の算数科複式授業から

五・六年生三人の子ども一人一人に優しく声をかけて指導にあたる先生の姿勢は、早速学校に持ち帰って実践したいと思わせるものでした。これからも複式学級の利点を生かした指導を保護者や地域と協力して行っていききたいと思います。
(占冠村立占冠中央小学校 岸本将裕)

15 国語科指導 7/26・8/26



日章小 第4学年「自分新聞をつくろう」相手にわかりやすく伝えるようにグループで推敲しているところ



東明中 第3学年「社会をとらえる」考えたい見出しを類型化し受ける印象を考える

新聞というメディアの教材性や新聞づくりにおける「書くこと」の指導の視点について学ぶことができました。また、参観させていただいた推敲の授業では、具体的な指導の工夫・評価の仕方など、大変参考になりました。

(旭川市立大町小学校 石川桂子)



広陵中 第1学年「身近な地域を調べよう」自宅から学校までの距離を調べるために「歩測」を体験する様子



陵雲小 第6学年「二つの戦争と日本・アジア」北鎮記念館を見学しグループで調べたことを発表

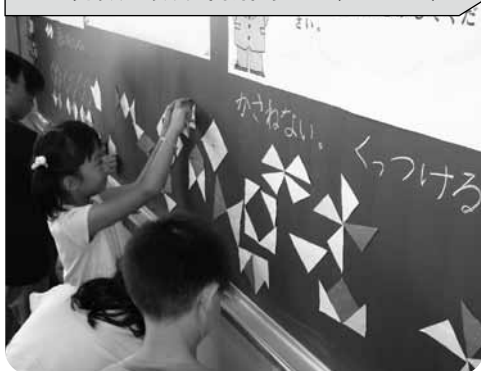
16 社会科指導 7/27・9/1

小学校・中学校ともに地域の教材を活用し、子どもたちが意欲的に取り組める工夫がなされている実践を間近で見ることができ、大変有意義な研修となりました。今後の授業づくりに生かし、自己研鑽に励みます。ありがとうございます。

(旭川市立愛宕東小学校)

村上綾

17 算数・数学科指導 7/28・9/2



東光小 第2学年「形をつくろう」三角の色板を使っているいろいろな形をつくっている様子

『問題解決的な授業の日常化』の重要性について受講し、児童が目的意識をもつて主体的に取り組む姿を参観しました。子どもが課題意識をもてる教材準備を考える発問の工夫の重要性を実感しました。日常の実践に生かしたいと思えます。(旭川市立新富小学校 古木晴花)

永山中 第1学年「方程式」500円硬貨を入れた貯金箱の中身を開けずに硬貨の枚数を求めるという単元の導入



神居中 第1学年「植物の世界」葉の表裏にある気孔蒸散量を調べる実験方法を考えているところ

理科教育の現状、授業の実際等、すぐに役立つ大変有意義なものでした。子どもたちが個人の考えを班で交流し思考を深め、その後の全体の交流で、お互いの考えが共有化され、学びが深まる授業は大変勉強になりました。ありがとうございます。(旭川市立神居東中学校 深澤 徹)

18 理科指導 7/29・9/8



神楽岡小 第5学年「花から実へ」受粉に必要な条件をグループで話し合う

19 外国語科(英語)指導 7/30・9/9



旭川小 第5学年 小学校外国語活動の授業を参観し、小中の連携の在り方を考える



旭川第2中 第1学年「文字あそびABC」からたくさんのイラストを描くActivity

芳賀先生の授業では、一つ一つの活動がスムーズにつながり、生徒を飽きさせない自然な流れの反復練習が集中力を持続させていたと思います。小学校のTTの授業は、多くの児童が理解できる易しい英語の指示が出され、楽しみながら英語を学ぶ姿が印象的でした。

(旭川市立神居東中学校 前田美希)



ミシンをつかって「はし袋」の作成に挑戦中



北海道教育大学旭川校「エコクッキング」の調理実習

20 技術・家庭科実技 8/2

午前は、環境を意識した調理の工夫について、実習を交えた講義をしていただきました。午後からは、被服実習の指導法や教材について、実技を通して考えることができました。ぜひ今後の指導に生かしていきたいと思います。
(旭川市立春光小学校 池田安由美)

21 体育科実技 8/2

走り幅跳びの助走と踏切についての説明を受ける受講者



子どもの体力の今日的な課題について、指導上の課題と照らし合わせながら議論をする中で、理解を深めることができました。また、体つくりと陸上運動の指導の展開例など、学んだことを今後の指導に生かしていきたいと思っています。
(富良野市立樹海中学校 加藤智佳)



光陽中 二本の縄でダブルダッチ「体づくり運動」から

版画は白黒、という思い込みを崩す一版多色木版画。難しそうな印象に反し、講師の「苦手は武器だ。」という温かなご指導、そして、徐々に仕上がる色鮮やかな作品に、終始作る喜びを感じることのできた講座でした。
(旭川市立末広小学校 高橋歩美)



版画の苦手意識を克服する「一版多色木版画」の制作

23 図工・美術科実技 8/5



26 音楽科実技 8/25

六合中 第2学年「指揮に合わせて楽しく表現しよう」の授業から



「バンドのための民話」で指揮法の実技を学ぶ様子

今回は指揮法を学ぶ研修でした。午前中の授業研究、午後の実技と、これからの学校祭活動に向けて、すぐに実践できる内容でした。そして、理論や形式よりも曲作りがいかに重要なのかを、改めて実感でき、有意義な一日でした。
(占冠村立占冠中学校 藤田希代子)

パソコン実技 美深小 6/21



Excel について研修を深めました

小学校外国語活動 名寄東小 5/10



「Firefighter」や「Doctor」など、なりたいた職業を伝える演習をしている様子

わかりやすく、おもしろく、親しみやすい講話でとても有意義な研修でした。電子黒板を有効的に活用する方法や、児童の知的好奇心を喚起するアクティビティを具体的に示していただきました。ご指導ありがとうございました。

(名寄市立名寄東小学校 大島慎吾)

出前講座寸描

特別支援教育 智恵文中 6/9・8/26



特別支援教育全般に関する理解を深め、教育的対応を学ぶ講義

(名寄市立智恵文中学校 村田美穂)

障がい者の理解と教育的対応について、大変わかりやすく説明していただきました。根本的なところで、共通の認識を持つことができそうです。ありがとうございます。



今年度2回目の開催で、発達障害への理解と対応について、さらに研修を深める

(名寄市立智恵文中学校 井本 学)

豊富な事例をもとに、支援の視点や方法を丁寧に説明いただきました。支援を要する生徒に対し、具体的なイメージを示すことの大切さ等、学んだことを授業づくりに生かしていきたいと思っています。有意義な研修に心より感謝いたします。

小学校外国語活動 豊岡小 8/27



「Sleepy」や「Happy」など、気持ちや様子の表し方の演習

外国語活動における授業の構成や、実際のこれからの授業づくりに役立つ大変有意義なものでした。特に、児童が抵抗なく活動できる授業をつくることの大切さを学びました。わかりやすくご指導いただきありがとうございました。

(旭川市立豊岡小学校 谷野絵美)

パソコン実技 多寄中 7/13



Webページの制作と効果的な活用について研修を深める様子

小学校外国語活動 東町小 9/28

(旭川市立東町小学校 久保真美絵)



A L Tとの連携や役割分担の在り方についての研究協議

小学校外国語活動の実施に向けて実技等、楽しくウォーミングアップの仕方を取り入れて、わかりやすく学ぶことができた。また、評価の在り方や具体的な指導方法などために、なる講座でした。ありがとうございました。

特別支援教育 扇山小 9/27



対応方法の具体例を説明

講師が実際にこれまで関わってこられた子どもたちへの実践例は、原因と指導例が具体的でわかりやすいものでした。そのため、自分が受け持っている子どもと重ね合わせながらお話を聞くことができました。ありがとうございます。

(富良野市立扇山小学校 黒須正義)

座談会

出席者

旭川市立大町小学校 教頭 橋本 彰

上富野町立上富野西小学校 教諭 虻川 康士

旭川市立東明中学校 教諭 成田麻友子

剣淵町立剣淵中学校 教諭 柴田 晃宏

占冠村立トマム小学校 教諭 富山 由子

上川教育研修センター 副所長 山下 尚年

司 会 指導員 佐藤 聖士

副所長 本日はご多用のところご出席いただき誠にありがとうございます。センター講座の更なる改善に向け、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしく願います。

一 講座内容について

司会 現在の講座内容や日程等について、ご意見をお聞かせください。

成田 今年度、国語科指導を担当しました。小・中同じテーマで取り組むことはとてもよいと思います。授業公開が八月下旬ぐらいに設定できると、授業者の立場では、余裕をもって指導計画を立てることが出来ます。

橋本 より受講者のニーズに応じた研修内容になることが重要だと思います。講座への要望を事前に集約するなどして

講座に反映させるとよいと思います。

富山 昨年担当させていた道德教育では、普段、見る

機会の少ない中学校の道德の授業を参観させていただき、小学校と中学校の違いを実感しました。

柴田 昨年の学級経営講座では、隣接する小・中学校の授業を参観することができ大変参考になりました。

虻川 今後はさらに小・中の連携が求められます。同じ校区の学校が、互いにどのような指導や実践をしているのか交流し、引き継ぎをしつかりしていくことが重要だと考えます。



橋本 彰 教頭

二 新学習指導要領への対応について

司会 学習指導要領の改訂の要点について、講座への期待はいかがでしょうか。

虻川 今までの国際理解教育は「外国に関する学習と英語」というイメージがあったと思います。今年度の講座では、他者理解やコミュニケーションを大切にしたい内容を考えました。昨年度は、道德の時間との関連を重視した講座内容を計画していますし、自国の文化や伝統に誇りをもつことは大切な国際理解教育です。

成田 ここでも、互いの内容や系統性を理解するうえで、小・中学校の同時開

催は非常によいと考えます。さらに、大学の先生方の講義によって、自分たちの実践が理論付けられ、よかったと実感しました。

橋本 今次改訂のポイント、内容だけでなく指導事項の改善であり、授業改善だと考えます。先生方の授業改善に対する課題意識を高めるような講座になることを期待します。

柴田 自校で研修部を担当しています。今次改訂では「言語活動の重視」が言われています。今までの取組と大きく変わるものではないと考えますが、このことを校内研修の中で、どのように伝え、具体的にどう取り組んでいくのが課題です。

文献だけでなく、先進的な授業を参観することで理解が深まると考えます。



柴田 晃宏 先生

成田 指導していくうえで改訂のポイントを具体的に对照できるような資料があるとよいですね。

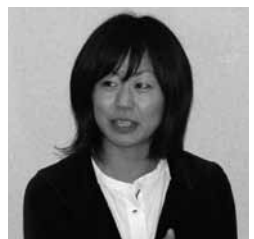
橋本 北海道教育委員会で作成された「教育課程編成の手引き」が、大変わかりやすいと思います。

司会 受講者への第一日目のアンケートからは「改訂のポイントについてさらに深めたい。特に言語活動について」という要望がありました。第二日目に当センターの研究紀要から、言語活動のポイントについてまとめたものをご紹介します。

した。

新卒二校目に勤務されている富山先生はいかがですか。

富山 現在は複式の学校に勤務しています。今年度の複式教育の講座にも参加しましたが、理論と実践に日程を分けてもっと研修を深めたいと感じました。新卒一年目は、研修に参加することで精一杯でした。教科や領域の改訂のポイントや、勤務する可能性のある複式教育など見通しをもって勉強しておけばよかったと思います。



富山 由子 先生

三 今日的な課題への対応

成田 いじめや不登校は深刻な問題です。講座では、受講者が抱える個別の事例について、解決の道筋が具体的に目に見える形で示されるような内容になるとよいと思います。不登校への対応であれば、登校するための具体的なプロセスが見えるといいですね。特別支援教育については、生徒からのサインを受け止め、どのような場合にどう支援するかという、指導の手立てを研修したいと思います。

虻川 一般的な研修会では、個別の事例で込み入った話はなかなかできません。その点、センターで実施されている出前講座は、学校の課題に即した、きめ細やかな対応をしていただけます。目の



虻川 康士 先生

司会 より受講しやすい講座にするためのアイデアをお聞かせください。
 虻川 受講者は、開催要項に書かれた情報しか講座内容を知る手立てはありません。もう少し詳しい内容が早く分かれば、参加したいという思いが高まると感じます。

四 より受講しやすくするためには

柴田 生徒指導や安全に関する問題については、実際に起きている事例に対して具体的な対応策を学びたいと思います。特に、最前線を取り組んでいる方からお話をお聞きたいと思っています。「この講座に参加しなければ知ることができない」というような内容の充実を図っていただき、是非参加して研修を深めたいと思います。

富山 私も、これまでの経験から、個別の事例について、子どもの状況や、担任や学校の実態に応じたアドバイスをいただき、具体的な相談も可能な出前講座は大変参考になると感じました。

成田 講座内容がより具体的にに見える形がほしいです。現在は、四月の下旬に締め切りがありますが、それを過ぎると、「もう申し込めないのでは」と感じてしまいます。場合によっては、募集を前・後期に分けるなどの工夫をしてはどうでしょうか。



成田 麻友子 先生

五 出前講座について

司会 最後の話題になりますが、各校のニーズに応えるべく「出前講座」を開設しています。さらに期待する内容についてお考えをお聞かせください。
 富山 先ほどの生徒指導や特別支援の内容に関連しますが、模擬授業のような形態で、参加者が子ども役になり、望ま

橋本 やはり他の研修会との差別化を図り、研修講座でやるという意義を明確にし、受講者にその意義を感じていただくことが重要だと思います。多くの資料や書籍より、講座で実践を通して学ぶことが一番わかりやすいと思います。センター講座の特質を一層打ち出して進めていただきたいと思います。

司会 たとえば、四月の講座内容研究協議会で決まったことの概要を、当センターのWEBページに掲載する。年度の途中で再度、募集の呼びかけをするといったことですね。

成田 他、講座とも関連しますが、締め切りの設定が若干早いように感じます。年度途中も受け付けていただけると、少な記述があると、課題意識が高まったときに「申し込みたい」という要望に応えられるのではないのでしょうか。

しいコミュニケーションの在り方を深めるような内容は大変参考になると思います。

柴田 中学校では平成二十四年度から新学習指導要領が完全実施されます。このことにかかわって、外部講師をお招きし、重点について説明いただく学習会のような形式で出前講座に来ていただくとありがたいです。

成田 他、講座とも関連しますが、締め切りの設定が若干早いように感じます。年度途中も受け付けていただけると、少な記述があると、課題意識が高まったときに「申し込みたい」という要望に応えられるのではないのでしょうか。

虻川 本校は継続して出前講座を希望していますが、最大のメリットは、全員が同じ内容の講座を受講できるということです。さらに、小学校外国語活動については、ややもすると五、六年生の担任に任せてしまいがちになる傾向もあると感じます。そうならないようにするためにも、積極的に受講し、全員の指導力を向上させていくことが大切だと感じます。

橋本 研修センターには、「コーディネーター」としての役割もあるのではないのでしょうか。学校が抱える様々なニーズに対して、開催要項の出前講座の欄に「その他のご希望がありましたらご相談ください。」という一文があると、学校は心強く感じます。よろしく願います。

副所長 多くの意見をお出しいただき



感謝申し上げます。すぐできる改善点も多く挙げていただきました。当センターの講座は全道に誇る、講師と受講者が協力して作り上げる講座です。各学校・受講者のニーズに、センターとしてどう対応できるかが求められていることを実感しました。

子どもたちのために教師が指導力をどう向上させるかが最大の課題です。今後皆さんのご協力をお願いします。本日は誠にありがとうございました。

ミニ二道研

地域との連携を図ったコンパクトな研修講座

「ミニ二道研」とは

ミニ二道研とは、北海道立教育研究所が、全道十四管内の教育研究所・センター等と連携し、各管内の実態や教育課題に対応した研修を実施することで、教員の基本的・実践的な指導力の向上を目指すために開設する講座です。

当センターでは、平成十八年度から北海道立教育研究所と連携し、ミニ二道研の講座を開設してきました。

講座の内容は、「学校組織マネジメントと学校評価」、「校内研究(基礎・応用)」、「言語活動の充実を図った授業づくり」、「構成的グループエンカウターの考え方と実際」等、今日の課題を踏まえた大変参考になるものです。

八月に開催した「ミニ二道研A」は

当センターでは、八月六日(金)に二十六名が受講した「ミニ二道研A」が開催されました。午前は「情報モラル教育の推進(家庭や地域との連携)」、午後は、二つのグループに分かれて、「事例研究の考え方と実際」と「授業づくりの基礎・基本(指導計画と評価)」が行われました。

「受講された方の感想」から

「授業づくりの基礎・基本(指導計画と評価)」を受講された谷村和美先生(旭川市立向陵小学校)からは「私自身、『情報モラル教育』については、最優先すべき課題であるという認識が薄かったのですが、今回、小学校の段階から各教科や道徳、特別活動等での指導と絡めながら系統的・体験的に指導していく必要性を感じました。また、トラブルの多くは、学校以外の場所で行っているため、保護者地域との連携が不可欠だということも再確認しました。『授業づくりの基礎・基本』の講座では、特に、過去の指導案のよい点や改善点を話し合ったり、他教諭と日々の実践を交流しあったりしたことが大変勉強になりました」という感想をお寄せいただきました。

また、近藤哲夫先生(旭川市立旭川第一小学校)からは「情報モラル教育の進捗にかかわって、大切なことをたくさん学ばせていただきました。特に『道徳』との関連性、情報倫理・情報安全の重要性が、心に残りました。情報モラル指導モデルカリキュラム表に基づき、本校でも実践を深めていきたいと思っています。」との感想をお寄せいただきました。

一月に開催される

「ミニ二道研B」へ

年が明けた平成二十三年一月十三日(木)は、「ミニ二道研B」の講座が開催されます。午前は「カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方」、午後は二つのグループに分かれ、「アサーション・トレーニングの考え方と実際」、「校内研究(基礎)」の講座が開催されます。各学校では、教育課程の編成が大詰めを迎えているところだと思いますが、是非、カリキュラム・マネジメントについて研修を深められてはいかがでしょうか。

講座には若干のゆとりがあります。多くの皆さんの受講をお待ちしています。



センターの資料を

ご利用ください

当センターでは、上川管内をはじめ、道内、全国の研究研修資料・教育関連図書を所蔵しています。

資料の一部を第二研修室にて、展示しております。また、本研修センターホームページでも所蔵資料一覧を公開しております。

どなたでも閲覧できますので、学校や個人等での研究・研修等でのご利用をお待ちしています。

センター研究発表会

日時 平成二十三年二月八日(火)

受付 午後一時から

開講式 午後一時三十分から

内容 研究発表

I 研究理論について

II 所員研について

III 研究協力校研究授業について

IV 成果と課題について

研究協議・助言とまとめ

たくさんの方の参加をお待ちしています。

発行日 平成二十二年十一月一日

発行 上川教育研修センター

〒〇七〇-〇〇〇三六

旭川市六条通四丁目

電話(〇二六)二四二五〇一

相澤 政義

印刷所 東信印刷株式会社

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。